

第17回京都山城便教会

平成30年11月23日（金）

空気が澄み清々しい天候の中、向日市立西ノ岡中学校にて、4名でトイレ掃除を行いました。今回、会場のお世話をいただいた先生が担任をされる教室を、交流会の場所としてお借りさせていただきましたが、入った瞬間にとてつもないエネルギーを感じました。5月にも同じ会場でさせていただきましたが、5月にはなかった空気感がそこにありました。きっとその先生が築き上げられてきた生徒との信頼関係、先生の期待に応えようとする生徒の頑張り、生徒の成長を常に願う先生の愛などが入り混じって出来上がった場の力があったのです。

トイレ掃除をしに参加するだけでなく、こういった本物の空気感に触れるところに京都山城便教会の意義があるのだと改めて感じさせていただき、最幸のスタートを切らせていただきました。



今回は経験者ばかりでしたので、早速トイレ掃除に入りました。尿こしをとると、奥から独特の臭いが漂い、参加者の気持ちを駆り立てました。参加者はそれぞれに思いを持ちながら、黙々とトイレを磨きます。見えない裏側に手を入れる方、尿石をとるのに必死な方、水あかをていねいに取ろうとされる方。経験者ばかりでしたので、まわりと比較をされることもなく、トイレに向き合っただけの気付きをひたすら丹念に磨き続けておられました。

<Before>



<After>



トイレに向き合い始めて2時間。あっという間に過ぎてしまいました。それでも参加された先生方は、まだ物足りなさそう。「まだ残っている…」という感情。実はこの感情は教育現場でもよくあるのではないのでしょうか。必死になってやってきて、「あともうちょっと」で時間切れ。教育現場では、「すべてやり切った」という経験よりも、「あともうちょっとだったのに」という経験の方が多くはないのでしょうか。そういった場面でどう整理をつけるのか、その先どうし



たらしいのかということも、トイレ掃除から学ばせていただいたように思います。

またトイレ掃除の裏側で、尿こしをきれいに磨き、使い終わった掃除道具を洗っていただく先生もおられました。こういった裏方を率先してやっていただける方がいるからこそ、メインの活動が滞りなく行えるということも改めて感じさせていただきました。

◆参加者の感想

- ・今のクラスは特に大きなこともなく、ここまで運営できているが、何もないからこそ不安になる。見えていないことがあるのではないかと。そう思ってトイレ掃除に参加しました。実際に、見えないところも手で触るとざらざらした感じが残っており、手の感覚を頼りに磨き続けました。きっとクラスでもそういった裏側に手を突っ込んでいかななくてはいけないのだろうと感じました。
- ・「まだもう少しやりたい」というモヤモヤ感が残ったままでした。現在、学年主任をしていて、「これでいいのか」というモヤモヤ感があって、トイレ掃除をしたらスッキリするかと思っていたが、モヤモヤ感は残ったままでした。でも大切なのは、今できることを一生懸命にすることだと気付きました。学年主任をしながらも、今できることを精一杯やっていきたいと思います。
- ・やはり現場が大事だということを改めて感じました。今回の会場をお貸しいただいた担任の先生から子どもたちの成長の様子を伺って感じるものが多くあったが、現場を離れているとどうしてもその感覚が鈍ってしまっている。だからこそ、このような学びの実践が大切であるし、この空気感をぜひたくさんの方の教員に味わってほしいと感じました。
- ・「この先生方と同じ職場でできたらいいな」とつくづく感じました。損か得かではなく、そこに大切なものがあると感じ、常に自分と向き合わられる姿が本当に嬉しくて、温かさを感じていました。そのためにも、この会のことを色々な方に伝えようと思いました。この会に、何かの得を求めても満たされないもので、そうではなく「こんな活動があるけど、一緒にやろう」と言った時に、「よくわかりませんが、先生が言うなら行ってみます」と言われるような自分自身の実践が必要なのだと強く感じました。感化できる自分磨きをしていきたいと思います。

今回も、トイレ掃除をしながら、教育や児童・生徒のことを考えられる有意義な時間となりました。次回は2019年2月24日（日）に行うことを確認し、またそれぞれの持ち場で感化できる人になっていくことを誓い、第17回を終えました。たくさんの方のご協力に感謝いたします。ありがとうございました。

(小笹大道)

